建築や都市の設計・研究のための

フィールドワーク・メソッド

（北の場合）

Last Updated: 2022/4/20

北　雄介

この文書では、街を歩いて人が何をどう感じているかを研究テーマとし、世界のいろいろな街を歩いてきた筆者（北）の目線から、フィールドワークのコツをお伝えします。要するにとにかく、

歩け、感じろ、書け！

という方法論になっています。

造形大の皆さんが、設計演習や卒業研究に活かせるように、書いてみるつもりです。是非皆さんもこれを読んで、自分なりの街の歩き方を見つけてください。

1. フィールドワークの目的

そもそも、なぜフィールドワークに出るのでしょうか。

第一に、図面や資料だけではわからない現場を実感すること。実際の街の中に立って、建物や道、人々の動きを観察すること。そしてそれを、写真や文字として記録すること。

これが、街のフィールドワーク調査と聞いて思い浮かべることでしょう。しかしそれだけではありません。

第二に、街を自分の感性で感じ取ること。街を見るとともに、自分と向き合うこと。

第三に、そこでイメージを膨らませること。設計や研究のアイディアを生み出して、どんどん展開すること。「考えるために歩く」こと。

といっても難しくはなく、楽しいことですし、経験を重ねるごとにいろいろな発見を得られるようになりますよ。

★仮説構築型フィールドワークと特定目的型フィールドワーク

上で述べているフィールドワークは、建築設計や街づくり、研究などの初期段階に行なうものを想定しています。何を調べたいのか、何をデザインしたいのか、などが決まっていないときに、それを探すためのフィールドワークです（①仮説構築型フィールドワーク、と呼んでおきます）。

中には、もう少し目的がハッキリしたものもあるでしょう。デザインや研究がある程度進み、何を調べたいのか、何をデザインしたいのかが決まっている段階に、明確な調査対象や仮説があった上でフィールドワークを行なうものです（②特定目的型フィールドワーク）。

すべてのフィールドワークが①と②に明確に分かれるわけではなく、①と②の中間のようなフィールドワークもありえます。

皆さんが設計演習や卒業研究に取り組む際のフィールドワークは、①に近いものが多いでしょう。**この文書では、主に①仮説構築型を対象に、フィールドワークのメソッドを解説**します。

②特定目的型のフィールドワークの場合は、その目的によって準備の仕方や歩き方は異なります。たとえば騒音を調べるには騒音計が、建物の大きさを調べるにはメジャーや測量道具が必要になります。特定の敷地の周りを調べるにはその敷地についての詳しい図面があるとよいでしょう。しかしこの文書は、特定の目的があるフィールドワークにも応用できる部分もかなりあると思います。

2. 準備をしよう

デザインもフィールドワークも、段取り八分！　であります。

2.1. 持ち物と服装

- ✓ 地図を挟んだクリップボード（バインダーとも言う。A4は持ちやすく、A3は広い範囲を書ける）
- ✓ ペン（持ち替えずに多色が使えるよう、3色ボールペンがお薦め）
- ✓ カメラ（片手で扱える、コンパクトデジカメがベスト。スマホでもOK）

- ✓ かばん（両手を使えるように、リュックや肩掛けかばんなどにする。手提げはNG）
- ✓ 歩きやすい服装と靴
- ✓ 雨具は傘よりも薄手のカッパがよい（両手を空けるため）

バインダー、ペン、カメラ。いわゆる三種の神器。

2.2. 書き込み用の地図

書き込むための地図を揃えるのが、結構大事です。道路や建物のかたち、地名などの情報が適度に載っていて、かつ書き込みやすい地図を準備しましょう。

●使える地図

- ✓ 基盤地図情報（国土地理院HPからダウンロードできる白地図。イラレで好きなようにレイアウトできる。詳しくは福本先生のマニュアルを参照→https://fkmt-lab.jp/toolbox/）
- ✓ ガイドブックや観光地図（イラスト満載のものや形がデフォルメされているもの以外なら、結構使える。事前に準備できればベターだが、観光案内所などで手に入れてコンビニでコピーすることも可能。海外の街なら『地球の歩き方』が頼りになる）
- ✓ ネット上の地図（スクリーンショットでイラレに貼るなどして、プリントする。Yahoo!の地図（https://map.yahoo.co.jp/）が、白黒地図や地形図も見られて便利）
- ✓ ゼンリン住宅地図（土地利用や住人・お店の名前なども載っていて、自分がどこを歩いているかわかりやすい。長岡市のものであれば、大学の図書室でコピーできます（B4からA4に縮小コピー））

※コピーの際には、著作権による制限を確認すること。
※書き込み用の地図に加えて、以下のような地図を用意しても面白いでしょう。

- ➢ 役所が発行している各種図面（都市計画図、ハザードマップなど。ネットで入手可能）
  長岡市はこちら→ https://www2.wagmap.jp/nagaoka/Portal
- ➢ 古地図（ブラタモリっぽくなる。図書館やネットで入手）

●コピー・印刷の仕方

- ✓ 白黒でコピー・印刷する（ペンで書いても見やすいように。特に観光地図などは、カラーのままでは使い物にならない）
- ✓ 薄めにコピー・印刷する（同上。濃いものならトレペを重ねるという手もある）
- ✓ 適切な縮尺で（調査範囲や目的によって変わるが、大きすぎず小さすぎず。無理に1枚に納めるよりは複数枚に分けて）

2.3. 計画

●ルート

そこがどんな街なのかを本やネットで調べ、どこを歩くかを大体考えておきましょう。知らない街の全容をざっくり知りたいときには、いろいろなエリアを横断して歩くのがよいので（繁華街、ビジネス街、住宅街、下町、裕福な地域、水辺、起伏のあるところ、など）、事前にどんなエリアがありそうか調べておくこと。

…ただし事前にあまり調べすぎると、驚きがなくなったり、調べたことを確認しに行くだけになってしまったりするので、そこが悩みどころ。歩く道もあまり決めすぎず、気の向くままに歩くのがよいです。

●日時

いつ街に出かけるかも、考えましょう。昼と夜、平日と休日では街の雰囲気が違います。午前中は店が開いていないため、元気のない街に見えてしまうことも。

3. いざ街に出よう

3.1. 何をするのか

繰り返すようにフィールドワークは、ただ歩くだけのものでも、街の客観的な現状を調べるだけのものでもありません。いい設計をするために、いい研究をするためにするのは、**「観察する」「感じる」「イメージする」**の3つです。

1．観察する

✓ どんな建物や木々があるのか
✓ どんな人や車が通っていて、どんな活動が起こっているのか
✓ 何かに着目してひたすらそれだけを見てみる
✓ 街の魅力や問題点は何なのか
✓ 看板や人の話から情報を集める

2．感じる

すべてのデザインは、自分自身の感情が源泉となります。

✓ 気持ちいい、面白い、かっこいい、かわいい、好きだ、嫌いだ、個性的だ、　など…
✓ 見たものだけではなく、音や風、におい
✓ 何か考えたこと、思い出したことはあるか

3．イメージする

現在見ているものから、過去や未来へと思考を展開する。この部分が、設計や研究の着想につながっていきます。**デザインは、フィールドで始まっている！**

✓ 過去：この建物は、この道のかたちは、どうしてこのようになったのだろう。誰がどのように、デザインしたのだろう。法律や社会情勢の影響は？　など…
✓ **未来：この空き地に、こんな建築をつくったら面白いんじゃないか。街が元気になるんじゃないか。この建物をリノベーションしてみたい。こんなことをもっと調べたらいいかも。こういう資料を探せないかな。など…**

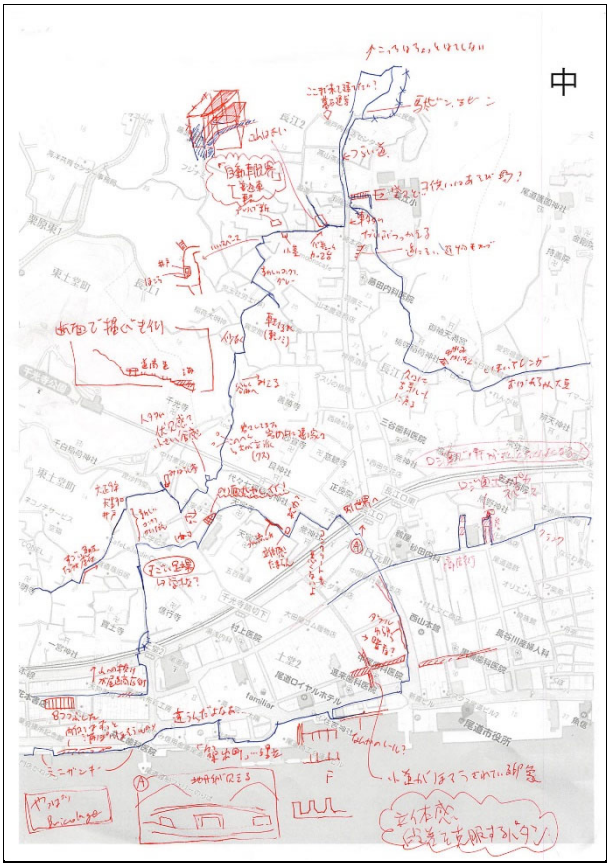
3.2. 書きまくる

少し歩くごとに立ち止まって、
まず、歩いたルートを、線で描いていきます。
そしてルートの周りに、観察したこと、感じたこと、イメージしたことを、文字やスケッチでどんどんと書き込んでいきます。

コツは、とにかくたくさん書くこと。書くことで自分の考えに気がつき、さらに思考を展開することができます。

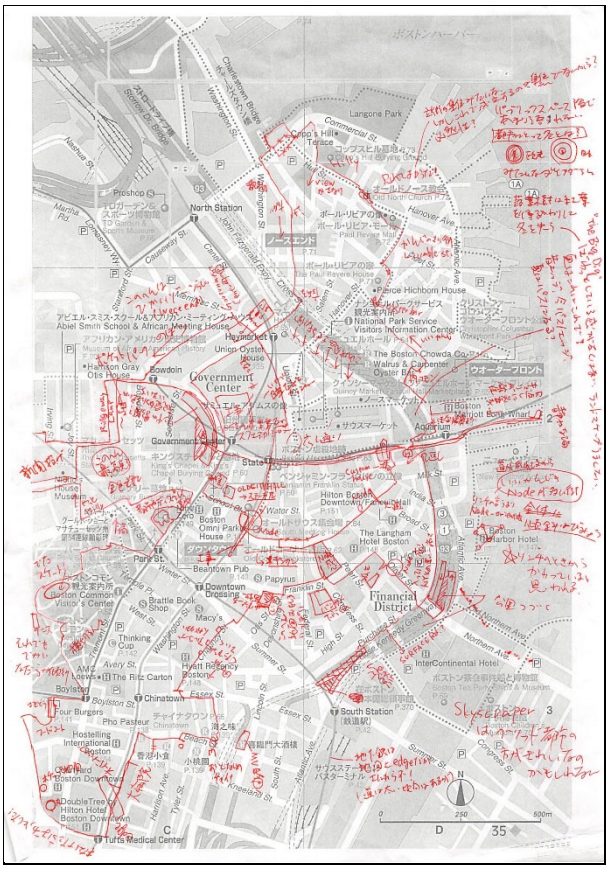
自分さえわかればOKなので、字が汚くてもスケッチが下手でもかまいません。

●北の書き込み地図の事例（恥ずかしながら）



2018年3月、尾道。

とにかく地形が楽しい街。中を道が貫通する建物を見つけたり、「自動車で行ける範囲、原付で行ける範囲、歩ける範囲を可視化したら面白い」というアイディアが浮かんだりしている。スケッチ、平面図、断面図を簡単に描く。
ベースの地図はYahoo!地図からスクリーンショットし、白黒で薄めに印刷。歩いたルートを青線で描いている。



2014年3月、ボストン。

ケヴィン・リンチの名著『都市のイメージ』の舞台ともなった街なので、極寒の中でとにかく歩いて書きまくった。『都市のイメージ』を現地で体感した思いや、そのとき取り組んでいた研究に関する着想が書き留められている。
ベースの地図は『地球の歩き方』より。調査前に、薄めに白黒コピー。

3.3. さらに…

●写真、ビデオ

見つけたものは、写真に残す。たくさん書くのと同様に、たくさん撮りましょう。書いた内容と対応づけられていると、後からよりよく思い出せます。

写真で納まりきらない全体的な情景や、音や風を記録したいときは、ビデオを撮っておくのがお薦めです。360°ぐるっと見回しながら撮ったり、歩きながら雰囲気の移り変わりを撮ったり。

ただし写真やビデオでは、感じたことや考えたことは残せません。書く方もしっかりと。

●調べる

街を歩きながら気になったことは、さらに調べてみると、街に対する理解が深まります。

- ✓ 歴史を説明する案内板は欠かさずチェック、必要に応じて写真撮影
- ✓ 街の歴史博物館などに行ってみる。特に海外では、街の変遷や再開発プロジェクトなどを詳しく説明した展示があることが多く、楽しい
- ✓ 図書館や役所、ネットで情報収集
- ✓ タワーや展望台にのぼって、街の全体的な構造をつかむのもお薦め

そして、もっとも生きた情報を得られる方法が、

- ✓ **街の人に話を聞く**

●何度も行ってみる

計画のところでも触れたとおり、街の表情は時によってかわります。**時間帯、曜日、天気、季節、イベントのあるときとないとき、など、時間をかえて何度も街に通ってみましょう。**

前の街歩きで気になったことについてさらに調べる、考えることもできます。そうすることで、①仮説構築型から②特定目的型の段階に進めることができます。

3.4. 注意事項

この方法に限らず、フィールドワークをする際に共通の注意事項ですが、

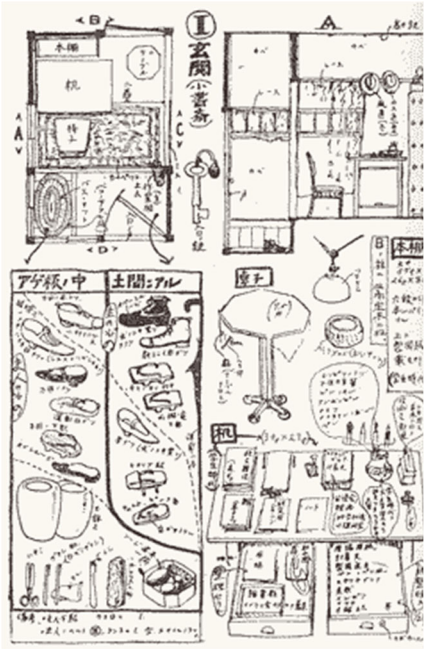
- ✓ 危険なエリアをあらかじめ調べておき、行かないようにする（特に海外都市だと、命にかかわります）
- ✓ 私有地内にみだりに立ち入らない
  - ➢ 公共施設でも立ち入れない場所はあるし、お店であっても開店していないときはプライベートな空間です。「空気を読む」こともフィールドワークの大事な技術！
- ✓ 写真を撮る際には、写る人に失礼のないようにする
- ✓ 何をしているかを聞かれる（怪しまれる）ことがたまにあるけれど、「長岡造形大学の学生で、大学の課題のための／卒業研究のための／街づくりのためのetc…調査をしています」とはっきり答える。そして街の人との会話を楽しみましょう

4. おまけ：参考になる本

最後に、フィールドワークの先人たちの本をいくつか紹介しておきます。

フィールドワークの仕方は人によって千差万別です。この文書で説明したのは北の方法にすぎないので、他の先生方にも聞いたり、これから挙げるような本を読んだりして、自分なりのフィールドワーク・メソッドを身につけてください。

- **『考現学入門』** 今和次郎（著）・藤森照信（編）、ちくま文庫、1987.
  大正～昭和初期に活躍した、日本のフィールドワークの祖・今和次郎（こん・わじろう）の、「考現学」の思想と楽しいスケッチが詰まった本。
- **『路上観察学入門』** 赤瀬川原平・南伸坊・藤森照信（編）、ちくま文庫、1993.
  マンホールや看板、何の役にも立たない階段やドアなどを、街を歩いてひたすら集める「路上観察」の活動記録。街を楽しむための心得がたくさん。
- **『建築フィールドワークの系譜』** 日本建築学会（編）、昭和堂、2018.
  原広司、アトリエ・ワン、陣内秀信など、建築家・研究者たちが世界各地で繰り広げたフィールドワークを集めた本。目的とそれに応じた調査方法が明かされ、建築家たちのフィールドノートも多数掲載されている。



今和次郎のスケッチ

- **『パブリックライフ学入門』** ヤン・ゲール他（著）・鈴木俊治他（訳）、鹿島出版会、2016.
  都市の公共空間の利用や活動に関する研究の歴史や、調査方法をまとめた本。どちらかというと②特定目的型フィールドワークの際の参考になるかも。
- **『都市のイメージ』** ケヴィン・リンチ（著）・丹下健三他（訳）、鹿島出版会、2007.
  ボストンの例でも触れた、都市研究の金字塔（原著は1960年）。都市の漠然としたイメージや雰囲気を、初めて学術的に扱った研究。オリジナルな調査方法も多数掲載。

おまけのおまけ

フィールドワークを元にした、北研究室の街歩き＆地図づくりプロジェクト。続きはwebで！

https://yoitatansakeikaku.net/